

## 平成30年度学校経営計画に対する中間評価報告書

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	分析(結果と課題)及び短期的(本年度中)改善策	
1	生徒の主体的・協働的学習を推進し、アクティブラーニングの視点から、思考力や表現力、コミュニケーション能力の育成に努めるとともに、学習の成果を的確に評価することに努める。(学びのスタンダード、SPH事業の成果の継承推進)	① 県工学びのスタンダードを活用し、かつSPH事業の成果の拡充・継承を目標とすることにより、創意工夫されたわかりやすい授業を実践する。	教務課 各教科	「県工Thinking time」などを通して、根拠を提示し論理的に主張できるようになったと回答する生徒のA+B評価の割合で判断する。 【改定】 A 60%以上 B 55%～60%未満 C 50%～55%未満 D 50%未満	(教務課・各教科) 中間評価 ( B ) 学校評価アンケートでは、「思う」と「やや思う」と回答した生徒の合計は57%でB評価である。内訳を見ると「思う」と明確に答えた生徒は9%であった。60%以上がA評価であるので、わずかではあるがA評価に届かなかったことが分かる。後期の授業研究・研修を通じてコミュニケーション力、思考力、創造力を養うことのできる授業改善に、学校研究推進室と教務課が主体となった取組を推進することで、学校全体として達成度を高めたい。
		② 生徒の主体的な学習を確保し、学習習慣を身につけさせる。	教務課 各教科	予習・復習及び課題や資格取得に向けた学習等に取り組むことができたかどうかを、生徒対象の学校評価アンケートA+B評価の割合で判断する。 【改定】 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	(教務課・各教科) 中間評価 ( B ) 学校評価アンケートでは、「できた」と「ややできた」と回答した生徒の合計は77%でB評価である。80%以上がA評価であるので、わずかではあるがA評価に届かなかったことがわかる。各教科・学科において検定や資格取得に向けての取組を継続していくこと。および、日々の授業や定期考査などに対する課題等の取組を充実させていくよう、全教職員が足並みをそろえ、生徒に学習が必要であることの指導を継続し、学習習慣をさらに定着するように努力したい。
		③ 教師個人及び各教科にて積極的に主体的・対話的な学びを取り入れた授業改善に取り組み、新しい授業づくりに挑戦する。	教務課 全教員	生徒が主体的に活動することを意識して授業を行っているかどうかを、教師対象の自己評価アンケートA+B評価の割合で判断する。 【改定】 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	(教務課・全教員) 中間評価 ( A ) 学校評価アンケートでは、「している」と「ややしている」と回答した先生の合計は98%でA評価である。各先生方の授業に対する取組(授業研究)や指導方法の改善が積極的に行われている。今後とも、校内研修や校内研究授業、教員相互に授業を公開する互見週間などをとおして、さらに授業の質を高めるための授業改善に取り組んでいきたい。
		④ 授業の情報化および学力の定着が実感できる授業を目指し、ICT機器の活用を促進する。	学習情報課	ICT機器の活用等により授業が工夫されていると回答する生徒の割合で判断する。 【継続】 A 70%以上 B 60%～70%未満 C 50%～60%未満 D 50%未満	(学習情報課) 中間評価 ( B ) 生徒の授業評価アンケートでは、「工夫されている」と「やや工夫されている」と回答した生徒の合計は61%でB評価である。今後もプロジェクターやスクリーンなどの機器の整備をすすめるとともに、教職員に対して、授業展開における効果的なICT活用についても理解を深めていただけるよう、研修機会の提供や活用の働きかけを継続したい。
2	将来の職業人としての意識の高い生徒の育成のため、規範意識やマナーの向上を目指す。(人間力スタンダード、校訓の活用)	① 校訓を掲げることにより、共通の理念のもと、一人ひとりの生徒の愛校心や帰属意識等、精神力を高め、将来の職業人に相応しい、規範意識や基本的な生活習慣を身につけた生徒を育成する。	生徒指導課 各学年	挨拶の励行に積極的に取り組もうと努力している生徒の割合で判断する。 【継続】 A 95%以上 B 85%～95%未満 C 75%～85%未満 D 75%未満 遅刻者数について前年比の減少の割合で判断する。 【改定】 A 前年比15%以上の減少 B 前年比10%～15%未満の減少 C 前年比0%～10%未満の減少 D 前年比増	(生徒指導課・各学年) 中間評価 ( B ) 挨拶の励行に取り組んでいる48%、やや取り組んでいる43%で91%の生徒が前向きに取り組んでいると回答した。しかし、学校全体として挨拶が素晴らしいと印象を受けるまでには及んでいない。生徒会、部活動顧問と連携し、挨拶の励行を徹底したい。
		② 周辺美化活動や除雪作業等のボランティア活動や県工モノづくりワールド等の地域との交流活動を通して地域に貢献する意識を育てる。	総務課	生徒が活動に積極的に取り組んだかどうか、学校評価アンケートのA+B評価の割合で判断する。 【継続】 A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70%～80%未満 D 70%未満	(総務課) 中間評価 ( B ) 生徒対象の学校評価アンケートにおいて、周辺美化活動参加者のうち87%の生徒が「積極的に取り組んだ、やや積極的に取り組んだ」と回答し、地域貢献に肯定的な回答であった。県工モノづくりワールド後のアンケートでは92.7%の生徒が「積極的に取り組んだ」と回答している。今後とも、地域貢献意欲を向上させるよう各ボランティア活動の趣旨を生徒へ周知しながら、積極的に取り組ませていきたい。
		③ 交通ルール等の遵守など、社会の一員としての自覚を高める。	生徒指導課 学年団	違反指導件数減少の割合を目標とする。 【継続】 A 前年比10%以上の減少 B 前年比5%～10%未満の減少 C 前年比0%～5%未満の減少 D 前年比増	(生徒指導課・学年団) 中間評価 ( D ) 8月末の違反件数が37件(昨年度11件)と増加している。違反件数を毎月、全職員に報告し、現状を把握してもらう。不定期に中央小学校付近、六枚町交差点付近で指導を行い生徒に常に交通ルールを意識させるようにしたい。
		④ いじめの早期発見・早期対応に向け、気になる情報についてはすみやかに共有し、組織的な対応を行う。	生徒指導課 全職員	教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができている。教師対象の学校評価アンケートA評価の割合で判断する。 【新規】 A 80%以上 B 70%～80%未満 C 60%～70%未満 D 60%未満	(生徒指導課・全職員) 中間評価 ( D ) アンケートより「アンテナを高めて生徒の様子を観察し、教員相互の頻繁な情報交換により、問題を未然に防ぐことができている」と回答したA評価の割合が37%であった。「やや思う」のB評価を加えたA+B評価では95%であるものの、今後とも全職員の意識を高めA評価で80%を超えるよう努力を継続していきたい。そのために、生徒指導委員会での情報交換をさらに効果的なものとし、各科、学年での生徒に対する観察を常に行いたい。

重点目標	具体的取組	主担当	達成度判断基準	判定基準
<p>3 専門的技能の習得をはじめ、資格取得や検定、各種コンテストに意欲的に取り組み確かな進路実現を図る。(技能スタンダードの推進)</p>	<p>① 就職希望者が100%内定するとともに、第1社目受験での進路実現を図る。</p>	<p>進路指導課 3年学年団</p>	<p>就職希望者が1社目受験で内定した割合で判断する。[継続] A 90%以上 B 85%～90%未満 C 80%～85%未満 D 80%未満</p>	<p>(進路指導課・3年学年団) 中間評価 ( A ) 1社目の受験で内定した割合 95.5% (昨年度は94.7%) 学校推薦による就職試験受験者数178名 1社目受験での就職内定者数 170名</p>
	<p>② 生徒の将来に役立つよう資格取得指導に積極的に取り組む。</p>	<p>工業7学科 教務課</p>	<p>認定者数(特別表彰+ゴールド+シルバー)で判断する。[継続] A 60名以上 B 50名～60名未満 C 40名～50名未満 D 40名未満</p>	<p>(教務課・工業7学科) 中間評価 ( D ) 10月現在で、ゴールド3名、シルバー4名、特別表彰0名である。昨年度の同時期は、ゴールド1名、シルバー13名であり、シルバーの数が少ないが、ゴールド・シルバーとも例年後期に多くが申請する、現時点での評価はDであるが後期には達成度が高まると思われる。例年以上の達成を目指し、生徒に対して申請を怠らないよう働きかける。</p>
	<p>③ 全国レベルの各種コンテスト・コンクールにおいて上位入賞を目指す。</p>	<p>工業7学科</p>	<p>[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会]の場合、大会出場の難易度で判断する。[継続] A 全国大会でベスト16以上の成績であった B 全国大会に出場した C ブロック大会で入賞した D 県大会で入賞した</p> <p>[地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会]の場合は、出場した全国大会の成績で判断する。[継続] A 全国大会でベスト8以上の成績であった B 全国大会でベスト16以上の成績であった C 全国大会で初戦突破した D 全国大会に出場した</p> <p>各種コンテスト、コンクールの難易度で判断する。[継続] A 全国レベルのコンテスト等で入賞 B 全国レベルのコンテスト等で入選 C 県レベルのコンテスト等で入賞 D 県レベルのコンテスト等で入選</p>	<p>[地区予選を経て、全国大会出場となる競技や大会] (工業7科) 最終評価にて実施 暫定 ( B ) 全国高等学校ロボット競技大会県大会2位および3位 (全国大会出場) 高校生モノづくりコンテスト旋盤作業県大会2位 (北信越大会出場) 高校生モノづくりコンテスト電気工部門県大会4位 (北信越大会出場) 高校生モノづくりコンテスト電子回路組立部門県大会2位および3位 (北信越大会出場) 高校生モノづくりコンテスト化学分析部門県大会2位および3位 (同) 北信越大会1位 (全国大会出場)</p> <p>[地区予選がなく、直接全国大会出場となる競技や大会] (工業7科) 最終評価にて実施 暫定 ( A ) 全国ソーラーラジコンカーコンテストベスト8</p> <p>各種コンテスト、コンクール (工業7科) 最終評価にて実施 暫定 ( B ) 第56回全国ファッションデザインコンテスト第2部高校生デザイン画の部2名入選 石川の農林業祭りポスター準特選 明るい選挙啓発ポスターコンクール県審査入賞 愛鳥週間ポスターコンクール県審査入賞 環境月間ポスターコンクール県審査入賞</p>
<p>4 部活動や学校行事等、課外活動への積極的な参加を促し、たくましい体力と精神力、豊かな心を育む。</p>	<p>① 活発な部活動を通して、加入率と成果の更なる向上に努める。</p>	<p>生徒会課</p>	<p>各学年の部活動の加入率で判断する。[継続] A 95%以上 B 90%～95%未満 C 85%～90%未満 D 85%未満</p>	<p>(生徒会課) 中間評価 ( A ) 全体で95.5%の生徒が部・同好会に所属している (昨年同期97.6%) 2年生の加入率が全体的に減少しているため、途中退部者への他の部・同好会への所属を働きかける。</p>
	<p>② 学校行事に積極的に取り組む姿勢を大切にし、協調性や責任感など心豊かな生徒の育成を図る。</p>	<p>生徒会課</p>	<p>保護者の目から見て生徒が学校の行事に満足していると回答するA+B評価の割合で判断する。[継続] A 90%以上 B 75%～90%未満 C 60%～75%未満 D 60%未満</p>	<p>(生徒会課) 中間評価 ( B ) 全国高校総体には男子バレー部、ボクシング部、テニス部が出場した。 県高校学校対抗順位は、暫定ではあるが男子3位 (昨年6位) 男女総合6位 (昨年10位) と前年と比較し向上している。今後も各種大会上位進出を目指していけるよう働きかけを継続する。</p>
	<p>③ 歯科保健指導を通し、健康な生活を営むことができる能力の育成に努める。</p>	<p>保健課</p>	<p>歯科受診済の生徒の割合で判断する。[継続] A 30%以上 B 25%～30%未満 C 20%～25%未満 D 20%未満</p>	<p>(保健課) 中間評価 ( C ) 現在の歯科受診率は21.2%であった。 検診後、早期に受診勧告等を実施した結果、昨年より向上した。今後、保健室中心にホーム担任、部活動顧問と連携し、個別指導の強化を図り、受診率の向上を図る。</p>
<p>5 教職員が相互に業務を点検し、組織的で効率的な業務のあり方を探る。</p>	<p>① 校務分掌ごとに業務の重複を点検し整理に努めることで、多忙化を改善する。</p>	<p>各科・学年・各課</p>	<p>各分掌内の定期的な会議において、主管する行事や業務の見直しについて議論する。[新規] A 協議の成果として、業務の改善を行った。 B 協議したが業務の改善には到らなかった。</p>	<p>(各科・学年・各課) 中間評価 ( A ) 行事の見直しや改善がみられた。また会議等も毎朝の打合せを密にし、会議回数を減らすように努力した。業務の役割分担を明確にすることができた。科内で重複業務削減の努力をし、補習に時間を費やすことができ、一定の効果 (1回目受験の合格率82.5%) があった。業務見直しと効率化の視点を絶えず持ち、気になるところはスピード感を持ってすぐに協議し改善していく。</p>